

BXグループ
CSR報告書
2017



「新しい」に、踏みだす。

シャッターやドアから新しい一日が始まるように
 BXグループは常に「新しい」価値創造に挑戦しています
 培ってきた技術を活かし
 あらゆる人々の暮らしにより多くの「快適」を届けるため
 私たちBXグループは今日も「新しい」一歩を踏みだします



編集方針

本報告書は、ステークホルダーの皆様にBXグループのCSRについてご理解いただくために作成しています。


経年の編集方針

- BXグループのCSR憲章をもとにした章立てで構成します。
- BXグループのCSRの取り組みについて、ステークホルダーの皆様にわかりやすくご報告することに努めます。
- BXグループの取り組みが、社会そしてステークホルダーの皆様にご評価されているかを受け止めるため、できるだけ皆様からのご意見をいただくように努めます。
- 取り組み内容をわかりやすくするために、個々の取り組みについて、担当者からの声を掲載します。
- 従業員数にはパートタイマー・嘱託社員等は含まれません。

2017年度版の編集ポイント

- (1) BXグループが考える対処すべき社会課題と、課題解決のために取り組んでいる事業領域をわかりやすく図示しました。
- (2) 文化シャッターは2015年に創業60周年を迎えました。創業当初からその時代の社会課題を解決する「新しい価値の創造」といった社会への貢献と、BXグループの成長・発展の歴史を「貢献と成長の両立」として紹介しています。
- (3) 事業テーマの一つである「防災」について、BXグループは「備え」と「対応」の両側面においてソリューション展開しています。今後発生が懸念される大規模地震に対する「備え」について、製品の共同開発や耐震試験装置導入時にご協力いただいたステークホルダーの皆様と意見を交わしました。

情報提供について

 マークがある項目は、詳細・関連情報をホームページでご覧いただけます。

報告対象期間

2016年度(2016年4月1日～2017年3月31日)を報告対象期間としています(ただし、一部2017年度の報告も含んでいます)。
 組織・役職は2017年4月現在のものです。

報告対象組織

BXグループ全体を対象としています。
 文化シャッターのみ、あるいは特定の会社に限定される場合は、本文中にその旨を明記しています。

次回発行予定

2018年8月予定

目次

トップコミットメント	3
中期経営計画 Q&A	5
BXグループの事業	7
BXグループのCSR	9

特集 製品・サービスを通じた社会課題の解決

「新しい価値創造」への挑戦とBXグループの成長	15
-------------------------	----

震災に強い製品づくりで「安心」「安全」な社会の実現に貢献	17
------------------------------	----

ステークホルダーダイアログ 産官民の連携で実現する 大規模災害に強い製品づくり	19
---	----

成長と共に 21

お客様の満足を追求
 グループの成長・発展
 誠実な企業経営

社会と共に 25

企業市民としての社会貢献
 人道的社会貢献
 文化活動の支援
 BXグループのエリア活動

地球と共に 29

環境負荷を軽減した企業経営
 環境配慮技術・商品開発
 自主的な環境保全活動
 BXグループ環境負荷の全体像

働く仲間と共に 33

人権の尊重
 雇用の創出
 満足度の向上

コーポレート・ガバナンス 35

第三者意見/第三者意見をいただいて	37
会社概要	38

WEB ホームページのご案内

BXグループの取り組みについて、より詳しい情報をホームページ上で公開しています。

<http://www.bunka-s.co.jp/>



「ポスト2020VISION」に グループ全体で取り組み、 CSR経営を通じて持続可能な 快適環境の社会づくりに貢献していきます。

長期ビジョンである「快適環境のソリューショングループ」をさらに進化させ、社会的責任を果たし、社会からの期待に応えることで、グループが永続的に成長していく「貢献と成長の両立」をめざしています。お客様をはじめとしたステークホルダーの皆様と共に、グループ一丸となって社会の持続的発展に貢献していきます。



文化シャッター株式会社
代表取締役社長

潮崎 敏彦

引き継がれる企業文化で一体感のあるグループに

文化シャッターは2015年に創業60周年を迎えましたが、その歴史はお客様目線に立った新しい価値創造の歴史でした。創業当初に掲げた社是「誠実・努力・奉仕」には、常にお客様にとってよりよい商品とサービスをご提供することで、お客様の幸せを実現し、社会と共に持続的な発展をめざす、という想いが込められています。

創業当初からお客様のニーズや社会からの要請に対して、常に商品、技術、サービスといった新しい価値の創造に挑戦し続ける企業文化は、今後も変わらない大切な財産です。

BXグループは新たにBXカネシン、BX TOSHIOを迎え、グループ全21社となりました。脈々と引き継がれてきたこの企業文化を従業員一人ひとりと分かち合い、一体感を持つことこそが、今の時代には必要なことだと考えます。

今後も未来に継承すべきBXスピリットを守り、社会へ奉仕し続けることで当社グループが持続的に成長することをめざします。

「ポスト2020VISION」の実現に向けて

当社グループは2016年に新たな中期経営計画をスタートさせました。長期ビジョンとして掲げてきた「快適環境のソリューショングループ」をさらに進化させ、当社グループの持つ資源を最大限に活用して社会課題の解決に取り組む「社会への貢献」を通じて「グループの成長・発展」を遂げることで、持続可能な社会の実現をめざす姿を「ポスト2020VISION」と位置づけました。

急速に変化していく社会情勢をよく「見て」、タイムリーな“ことづくり”を実現する総合コンサルティング力で、潜在化する社会課題に積極的に向き合うことが、当社グループのCSR経営の根幹となっています。

創業者の精神に基づいた「ポスト2020VISION」の実現に向け、当社グループが取り組むべき具体的重点項目を設定し、活動についてPDCAサイクルを運用することで、CSR経営の実効性を高めていきます。

CSRの整備と強化

当社のCSR活動は2007年にスタートしました。社会的責任を果たし、社会からの期待にお応えするため、当社では社是・経営理念に基づいた「CSR憲章」を掲げ、それを実践するための「CSR行動指針」を定めています（→P11参照）。

CSR活動がスタートした当初から「成長と共に」「社会と共に」「地球と共に」「働く仲間と共に」という4憲章ごとに活動を分類し、コンプライアンスの徹底、お客様・お取引先様への取り組み、地域・社会貢献、環境負荷低減を事業に組み込んだ地球環境保全への取り組み、および従業員の幸せの実現を目的とした取り組みなど、独自のガイドラインとなる「CSR憲章」によりCSR全般を整備して活動しています。

また、持続的な企業価値向上をめざし、従来からコーポレート・ガバナンスの強化には継続的に取り組んでおり、とりわけ近年の改正会社法やコーポレートガバナンス・コード等に見られる「企業経営の透明性の確保」をさらに担保するため、監査等委員会設置会社に移行し、取締役会の監査・監督機能を一層強化する体制を整備しました。

グループ全体としてのCSR活動はまだ未熟なところもありますが、お客様、ならびにお取引先様からの引き合いや、地域社会の皆様からの温かいお声に、10年を超える堅実なCSR活動の成果というものも感じています。

今後もさらなる信頼の獲得をめざし、社会に必要とされる企業へと成長するよう、「CSR憲章」に基づき、活動を着実に展開していきます。

ステークホルダーの皆様へ

当社グループの「CSR報告書」も、今号で11冊目となりました。CSR活動のご報告を中心とした内容から、近年は事業とCSRの関係や、中期経営計画の成果、当社グループのCSVの考え方等、財務・非財務の両面を盛り込み、経営と一体となった内容をご報告する構成としています。

CSR憲章ごとの目標設定とPDCA運用を意識し、当社グループの掲げるあるべき姿に向かって着実に成長・進化する過程を、この報告書でご覧いただければと思います。お客様、お取引先様をはじめ、投資家の皆様、地域社会、協力会社の皆様、そして全グループの従業員には、本報告書をご一読いただき、忌憚のないご意見、ご感想をお寄せいただければ幸いです。



Q. 現在取り組んでいる中期経営計画について改めて骨子をお聞かせください。

2020年までの期間は経営の転換期だと捉えています。将来のBXグループのあり方について現在の事業領域にとらわれない幅広い観点で見据え、次のステップへと進化する、いわば準備期間とも言えます。特に東京オリンピック・パラリンピック前後には市場環境が大きく変化することが予想されますが、当社グループが強固でレジリエントな経営体へと成長することがこの中期経営計画の骨子となっています。

中期経営計画の内容 (2016-2020)

基幹事業売上高	1,279億円 (売上比率 64.0%)
注力事業売上高	602億円 (売上比率 30.1%)
連結売上高	2,000億円

基本テーマである「進化する快適環境ソリューショングループ」の実現に向け、事業領域の拡大による企業価値の向上をめざしています。

「基幹事業を伸ばしつつ、注力事業を成長させ、次世代経営へ向けた進化をめざす」ことを具体的な施策として、創業当初から当社グループの発展を支えてきた主にシャッターとドアを中心とした既存事業の強化・拡充を図り、同時にグループのさらなる発展を担う注力事業を成長させることを、将来に向けた成長戦略としています。

基幹事業	シャッター、ドア、パーティション、エクステリア
注力事業	エコ・防災事業、ロングライフ事業、海外事業、メンテナンス事業、特殊建材事業、+α

特に、2015年度までの中期経営計画でも事業テーマとして掲げていた「エコと防災」については、引き続き当社グループが社会的使命を果たすために注力すべき事業と捉えており、防災関連製品の拡充やステークホルダーとの協働事業により、BCP対策を含めた災害に対する「備え」と災害発生時の被害を最小限に抑えるための「対応」の2つの側面におけるソリューションの展開に注力しています。

海外事業では当社の生産拠点であるベトナムを中核としたASEAN(東南アジア)への販路拡大、現地有力企業との資本提携によるシナジー効果や当社ブランドの浸透にも期待しています。

創業まもなくして業界初のアフターサービス制度をスタートさせた歴史からも、義務化された防火設備の点検報告制度への対応を中心としたメンテナンス事業は、まさに本業を通じて社会的責任を果たすべき重要な注力事業です。

その他、住宅のリフォームやビルのリニューアルを手がけるロングライフ事業、特殊仕様ニーズに的確にお応えする「特殊建材事業」を注力事業としています。

Q. 5ヶ年計画の中期経営計画における2016年度の位置づけをお聞かせください。

初年度に当たる2016年度は、前年まで推し進めてきた10年間にわたる長期経営計画で実施してきた事業活動を基盤として、いわば長年まいってきた種に実を結ばせるための仕掛けづくりに注力しました。また、未来に向けた仕掛けづくりとして挙げられるのは、積極的なM&Aの推進です。新たな事業領域への拡大に向け、今後のシナジー効果に期待しています。

Q. 進捗状況、および成果についてはどうですか。

注力事業を成長させることで、次世代経営へ向けた進化をめざしています。

2016年度は特に「特殊建材事業」と「メンテナンス事業」に大きな成果がありました。

メンテナンス事業については、防火設備の定期検査、および報告制度の法制化に対応した体制を強化しています。急務として進めている検査員とメンテナンス要員の確保・育成や、作業効率の向上等は依然として大きな課題ではありますが、グループ会社である文化シャッターサービスとの連携により、2016年度は約177億円の売上げ、対前年比で107%となりました。

特殊建材事業につきましては、特殊仕様製品のご要望にお応えするため、特殊技術を保有する提携企業との連携や、技術の標準化・商品化を推進し、新市場の開拓にも積極的に取り組みました。BXグループならではの「お客様をみる」視点と、お客様の潜在化したご要望を顕在化するコンサルティングセールスが功を奏し、2016年度は約6億円の売上げ、対前年比738%と大きな成果をあげました。

Q. 初年度を終えて見えてきた対処すべき課題とはなんですか。

当社グループが社会と共生しながら成長し、急速な変化にも対応しうるレジリエントなグループとなるために

は、人材力の強化は必須です。絶えず変化する社会課題を解決するために当社グループに何ができるか、自分の範囲外であっても解決に向け率先して働きかけることが重要です。徹底的なお客様目線による高い提案力によってこれまで以上にお客様と社会から必要とされる商品・サービスを提供するために、商品開発はもとより、全ての分野において教育、研修に注力するとともに、従業員が自発的に成長できる人事制度の拡充と環境の整備を進めていきます。

また、インターネットを利用した商品・サービスの提供といったインターネット販売への参入による新たな販売チャネルの開拓など、将来を見据えた取り組みも開始しています。

IoTの発展により、「モノが情報を発信する」時代がすぐそこまで来ています。当社グループがこれまで築き上げてきた技術といかに融合させるか、これからの大きな課題といえるでしょう。

Q. これからの展望についてお聞かせください。

まず中期経営計画の2年目となる2017年度は、「成長戦略の構築」の基本方針のもとで、従業員一人ひとりが着実にPDCAを回すことで、生産性・効率性の向上に取り組むと共に、先に述べた「基幹事業」の強化と「注力事業」の発展を図ります。

ここ数年でBX西山鉄網をはじめ、建築金物のBXカネシンと木造構造計算のBX TOSHOを新たにグループに迎えたことで「進化する快適環境ソリューショングループ」の経営ビジョンをますます具現化し、これまで培ってきたグループとしての総合力を駆使して地域課題や社会課題に積極的に取り組んでいくことにより、企業価値の向上をめざします。

もちろん当社グループだけで成し得ることにには限界があります。産官民を越えたさまざまなステークホルダーの方々と連携し、お知恵を借りながら当社グループの持てる資源を最大限に活かし、高いシナジー効果を発揮することで、社会の持続的発展に貢献していきます。

BXグループの事業

BXグループは総合建材メーカーとして、主力のシャッターやドアの生産販売にとどまらず、止水事業や太陽光発電システム事業などの幅広い分野で事業を行っています。
グループ各社の強みを融合させた総合力で、さまざまなご要望にお応えする製品・サービスを提供しています。



BXは、当社グループが常に未知への挑戦を続け、進化していく姿を示すシンボルです。

Bは文化シャッター全グループを、Xは未知数・無制限・掛け合わせる力を意味する「進化」を表しています。「BXグループ」は今日まで培ってきた技術・製品を基盤とし、さらに創造力や技術力、人間力を掛け合わせ未来に向かって進化し続けます。また、スカイブルーは、当社グループがめざす「快適環境のソリューショングループ」として、地球環境の美しさを象徴する青空の広がりイメージしたものです。

事業領域

シャッター 関連製品事業	軽量シャッター、重量シャッター、オーバースライドドア、窓シャッター、電動開閉機などの製造、販売、施工を行っています。
建材 関連製品事業	住空間、店舗、ビルなどの建築物におけるエクステリア建材、ドア、パーティションなどの製造、販売、施工を行っています。
サービス事業	全国130ヶ所のサービスステーションで各種シャッター、金属製ドアなどの修理・点検業務などを行っています。
リフォーム事業	首都圏を中心に24店舗を展開し、スピード、提案力、施工力を活かしたリフォーム事業を行っています。
その他事業	太陽光発電システムおよび止水事業、注文家具の製造販売のほか、損害保険代理業、旅行代理業などを行っています。

グループ会社一覧

シャッター関連

- BX 新生精機株式会社
- BX 沖縄文化シャッター株式会社

- BX 西山鉄網株式会社
- BX 文化工芸株式会社
- BX カネシン株式会社

その他

- BX あいわ株式会社
- BX TOSHO 株式会社

建材関連

- BX テンパル株式会社
- BX ケンセイ株式会社
- BX 文化パネル株式会社
- BX 中央工業株式会社
- BX 鐵矢株式会社
- BX 東北鐵矢株式会社
- BX ティアール株式会社
- BX 朝日建材株式会社
- BX 紅雲株式会社

サービス

- 文化シャッターサービス株式会社

リフォーム

- BX ゆとりリフォーム株式会社

海外

- BX BUNKA VIETNAM Co.,Ltd.
- BX BUNKA TAIWAN Co.,Ltd.

関連会社

- 文化シャッター秋田販売株式会社
- 文化シャッター高岡販売株式会社
- 株式会社エコウッド
- 不二サッシ株式会社
- Eurowindow Joint Stock Company

対処すべき社会課題

ライフ・イン

市場ニーズに適した製品やサービスを提供する「マーケット・イン」の発想をさらに進化させ、お客様の生活全般を捉えた感覚や視点で、必要とされる製品やサービスを提供します。

ライフロング・パートナーシップ

製品やサービスを「安心」「安全」かつ末永くお使いいただき、お客様との持続的な信頼関係を構築していくことで、広く社会に対して持続的に貢献していきます。

ユニバーサルデザイン

バリアフリー対応をはじめ、快適な環境をサポートする製品など、ユニバーサルデザインの視点で多様なニーズにお応えします。

防犯

確かな防犯性能に加え、利便性や快適性、デザイン性までも追求した多様な製品を取り揃えています。



「CPマーク」は防犯性能の高い建物部品であると認定された商品・部品に貼付、表示される共通標準です。

中期経営計画における注力分野

エコ

生産・物流施設向け、住宅向けともに多岐にわたり、環境に配慮した製品やサービスを提供しています。



「エコマーク」はライフサイクル全体を通して環境への負荷が少なく、環境保全に役立つと認められた商品につけられる環境ラベルです。

防災

防火・防煙性能を有した製品やゲリラ豪雨などによる浸水被害を防ぐ製品を取り揃え、企業のBCP対策を支援します。



ロングライフ

住宅のリフォームやビルの耐震改修など多様なニーズに対応した幅広いリフォーム・リニューアルサービスを提供しています。



メンテナンス

24時間365日対応のアフターサービス体制で、経験と実績を積んだカスタマーエンジニア(CE)が責任を持って対応します。



海外

ASEAN(東南アジア)を中心に販路を拡大し、現地提携企業とのシナジー効果とBXブランドの浸透を図っていきます。



特殊建材

グループ会社をはじめ特殊技術を保有する提携企業との連携により特殊仕様のニーズにお応えするソリューションを提供しています。



BXグループのCSR

BXグループでは、「進化する快適環境ソリューショングループ」を基本テーマに掲げ、事業活動を行っています。当社グループの社是・経営理念には、「お客様の幸せ」という創業者の思いが込められており、この思いを従業員と共有することで、社会と共に持続的に成長できるよう、BXグループはさらに進化し続けます。

活動の拠り所

「『お客様の幸せ』のために、常によりよい商品を提供することで社会のお役に立つ」という、奉仕の精神こそが私たちBXグループのCSRの礎となっています。

創業当初から買ってきたお客様目線のものづくりの精神と技術力で、お客様の暮らしに「安心」「安全」を提供する使命と役割を果たしてきたことが、今のBXグループの基盤をつくり、お客様をはじめとするステークホルダーの皆様から信頼を得ることにつながっています。

中期経営計画 (2016-2020)

BXグループは、2020年までの5ヶ年を見据えた新たな中期経営計画を策定し、2016年度より基本テーマ「進化する快適環境ソリューショングループ」の実現に向けた取り組みをスタートさせました。新中期経営計画の初年度は、これまで培ってきた革新的な取り組みをもとに、受注拡大を柱とした「新たな挑戦」を推し進めることで、グループ一丸となって目標達成に取り組みました。

社 是

「誠実」
心のふれあいである。
真心のふれあいで信頼は生まれる。

「努力」
創造する行為の持続力である。

「奉仕」
自発的な行為、行動でお客様や社会のお役に立つこと。
お客様の立場に立った思いやりの心であり、
いたわりの精神である。

経営理念

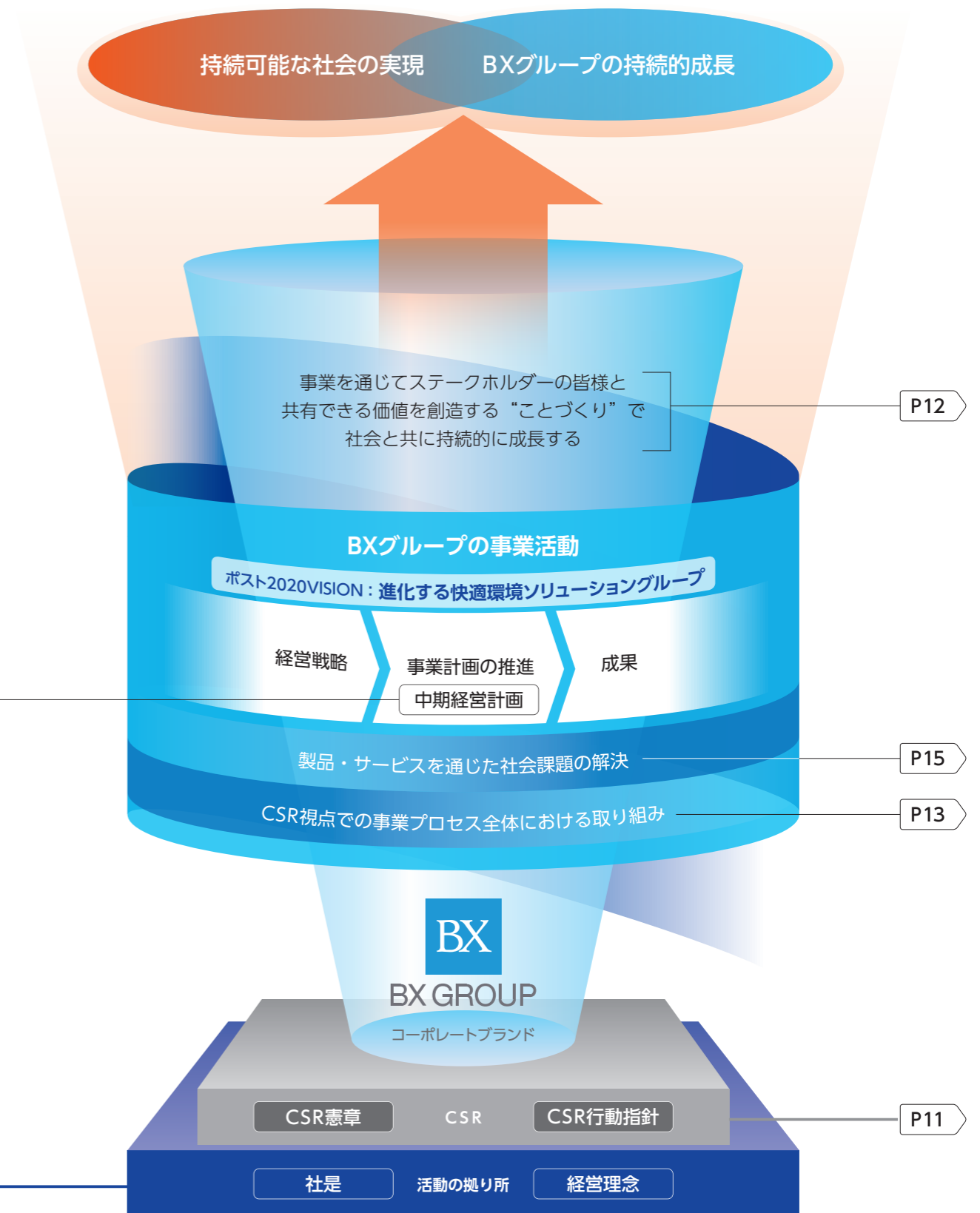
私たちは、常にお客様の立場に立って行動します
私たちは、優れた品質で社会の発展に貢献します
私たちは、積極性と和を重んじ日々前進します

ポスト2020VISION

**進化する
快適環境ソリューショングループ**

中長期的な会社の経営戦略と対処すべき課題

1. 「基幹事業」の強化・拡充及び「注力事業」の体制強化
2. “ことづくり”の発想に基づくソリューションの提供
3. ストック市場への対応強化
4. 海外事業の強化・拡充
5. 人材育成の強化
6. 経営基盤の強化



「CSR憲章」と「CSR行動指針」

BXグループは、社是・経営理念に基づいた「CSR憲章」と、それを実践していくための「CSR行動指針」を定めており、従業員一人ひとりが共感し、自ら実践することおよび、コンプライアンスを徹底することにより、社会から信頼される企業をめざしています。

また、社会の課題やニーズを踏まえた上で、「CSR憲章」の4テーマごとに年度の目標を定め、活動を実践、評価しています。

CSR憲章 (上段)	
CSR行動指針 (下段) ●項目	
成長と共に P21 公正で誠実な事業活動を通じ、お客様から満足され信頼される商品・サービスを提供し、快適環境の創造を基本として、BXグループの成長を追求します。 <ul style="list-style-type: none"> ● お客様の満足を追求 ● グループの成長・発展 ● 誠実な企業経営 	
社会と共に P25 人々の心を豊かにする活動に参加、支援することにより、良き企業市民として、社会の発展に貢献します。 <ul style="list-style-type: none"> ● 企業市民としての社会貢献 ● 人道的社会貢献 ● 文化活動の支援 	
地球と共に P29 全ての事業を通じ、エネルギーの省力化に努め、地球環境の保全に自主的に取り組みます。 <ul style="list-style-type: none"> ● 環境負荷を軽減した企業経営 ● 環境配慮技術・商品開発 ● 自主的な環境保全活動 	
働く仲間と共に P33 働く仲間の個性と創造性を尊重し、一人ひとりの満足と成長をめざします。 <ul style="list-style-type: none"> ● 人権の尊重 ● 雇用の創出 ● 満足度の向上 	

CSR推進体制

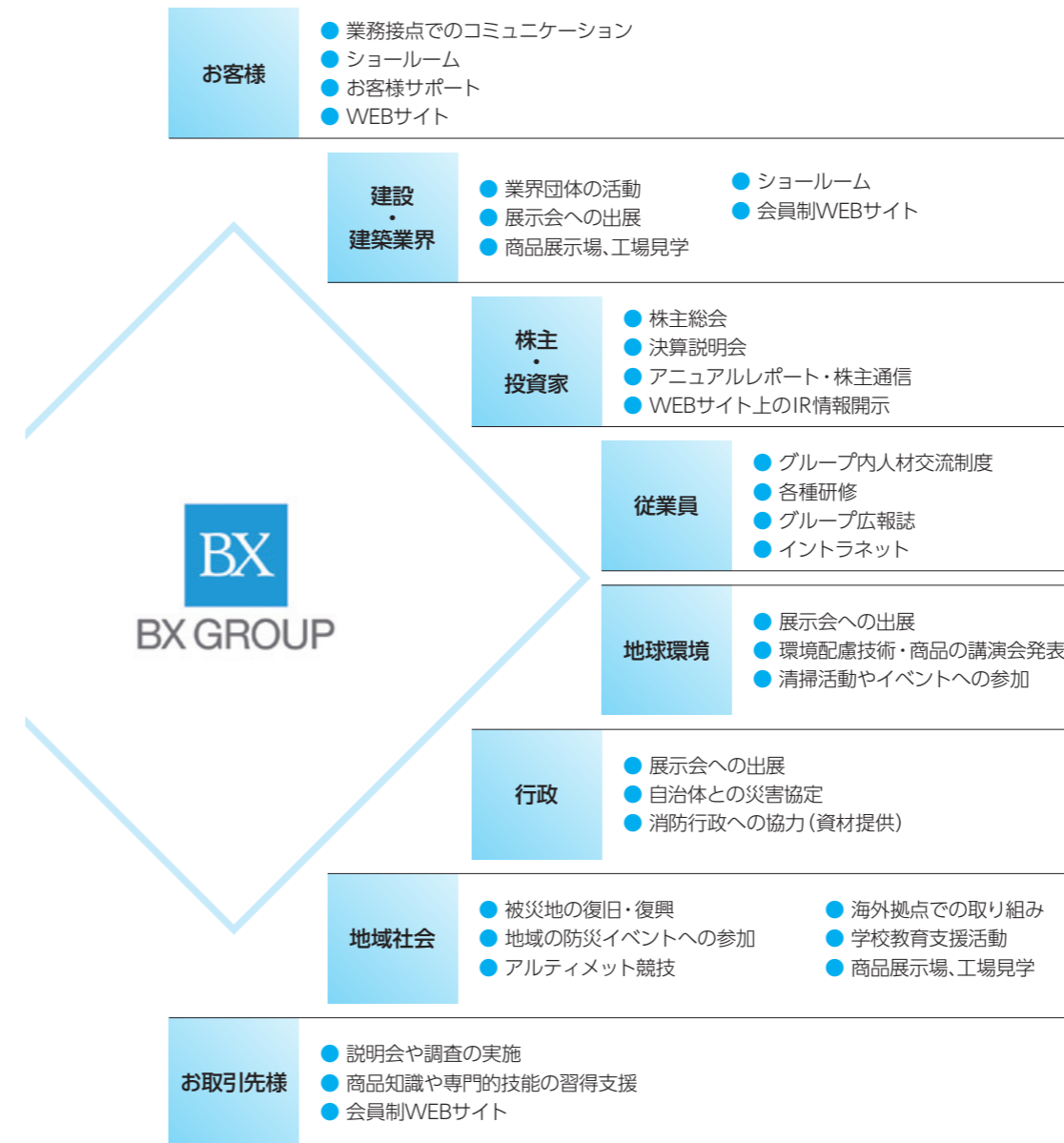
業務担当役員(常務執行役員)を委員長、CSR統括部長(執行役員)を副委員長、CSR4憲章委員長を委員とする「CSR委員会」を設置し、活動方針を審議・決定しています。決定した方針に沿って、CSR4憲章委員会とCSR統括部が中心となってテーマごとに活動を推進しています。



ステークホルダーとの主なコミュニケーション

BXグループは、お客様に新たな感動や気づきを呼び起こし、新しいライフスタイルを提供する高付加価値の創造をめざしています。お客様の生活に寄り添い、感性を持って「見る」こと。そのために常に多様なステークホルダーの皆様との対話を重ね、ご要望やご期待に応えているかを検証する、質の高いコミュニケーションを実践しています。

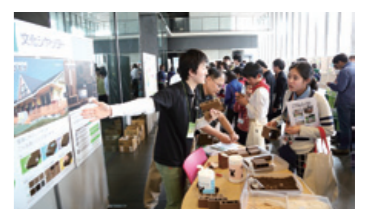
これらの機会を通して、皆様にBXグループのめざすべき姿やそれを実現させるための取り組みについてご理解、ご協力をいただくとともに、皆様の声に真摯に耳を傾け、事業活動に反映させています。



展示会出展ブースの様子



グループ内人材交流制度(海外派遣制度)



子どもエコクラブ全国フェスティバル2017



「防犯・防災」サイト: マモライフ

<http://bx-life.com/>



CSR視点での事業プロセス全体における取り組み

BXグループは、開発から資材調達、販売、製造、物流、施工、メンテナンスまで、一連の事業プロセスにおいて、それぞれの分野での重点課題を掲げ、具体的施策として取り組むことで、プロセス全体の品質向上を図っています。

またあらゆるプロセスで社会や環境に与える影響に配慮し、効率的なバリューチェーン・マネジメントを強化することで、社会からの期待と要請に応えます。

バリューチェーンにおける課題と2016年度の主な取り組み

- 課題**
- 「エコ」「防災」「新技術」をキーワードとした新商品の開発
 - お客様目線の「ことづくり」を反映した進化した商品開発
 - 環境配慮設計の推進

主な取り組み

消費電力の削減に寄与するため、省エネ、電源レスや断熱、遮熱、通風、換気性能のある商品の充実化を図っています。また近年、経済産業省が推奨しているZEB*、ZEH*実現のための必須アイテム「BEMS」「HEMS」と、当社製品との連携を図ることで、従来の「あける・しめる」製品から、「お客様に楽しい生活空間を提供できる」製品への転換を進めています。当社はお客様目線で高い付加価値を追求する「ことづくり」の発想のもと、商品開発を進めています。

* ZEB: ネット・ゼロ・エネルギー・ビル、ZEH: ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス

- 課題**
- お客様目線の総合提案
 - 課題解決に向けたコンサルティングセールス

主な取り組み

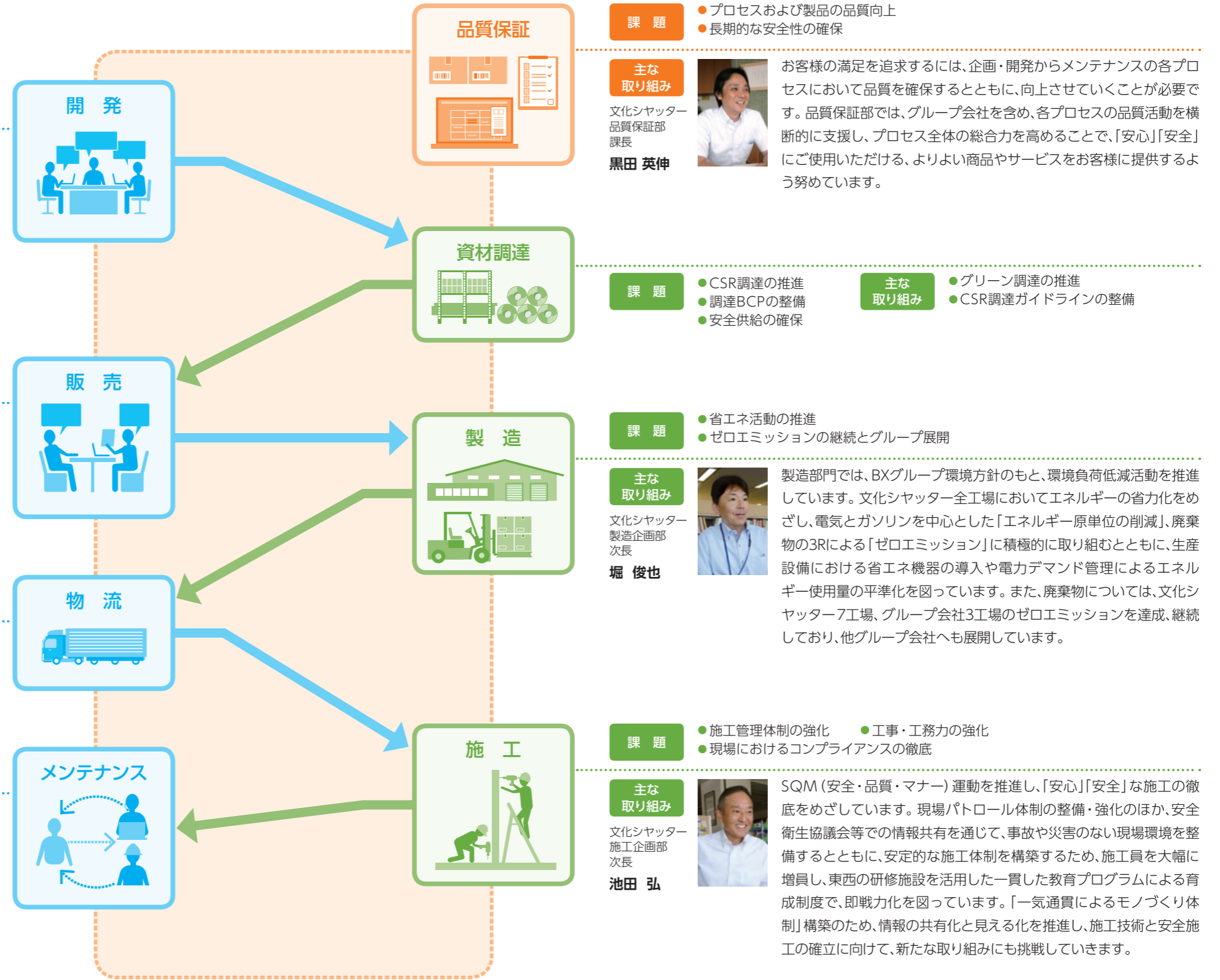
「お客様との架け橋」としての役目を強く意識しています。開発部門との情報交換から、製造、施工、保守点検を含めたメンテナンスへとつながる工程の一つとして、お客様の潜在的な要望をくみ取り、わかりやすく具現化する総合提案により、さらなるお客様満足の向上をめざしています。販売職はお客様に一番近い立場から、地域によって異なるお客様のお困りごとを発掘し、BXグループとして課題解決するための新たな価値創造にも貢献できると考えています。

- 課題**
- 安全な運行
 - 物流の効率化
- 主な取り組み**
- エコドライブの推進

- 課題**
- 商品知識・技術力の向上
 - お客様目線の提案力
 - 修理・メンテナンス品質の確保

主な取り組み

日頃から心掛けているのは「お客様が望む以上のサービスを提供すること」です。ただ不具合箇所を修理するのではなく、「安心」「安全」はもとより、お客様がより快適にお使いいただけるようご提案しています。お困りごとがあれば直接お話しをうかがい、当社のサービスをどう駆使すれば解決に導けるかを、お客様とコミュニケーションを重ねながらご納得いただける結果を探ります。お客様の生活に寄り添い、安心して未永く製品をお使いいただくことが当社の使命だと考えています。



品質保証

課題

- プロセスおよび製品の品質向上
- 長期的な安全性の確保

主な取り組み

文化シャッター品質保証部課長 **黒田 英伸**

お客様の満足を追求するには、企画・開発からメンテナンスの各プロセスにおいて品質を確保するとともに、向上させていくことが必要です。品質保証部では、グループ会社を含め、各プロセスの品質活動を横断的に支援し、プロセス全体の総合力を高めることで、「安心」「安全」にご使用いただける、よりよい商品やサービスをお客様に提供するよう努めています。

資材調達

課題

- CSR調達の推進
- 調達BCPの整備
- 安全供給の確保

主な取り組み

- グリーン調達の推進
- CSR調達ガイドラインの整備

製造

課題

- 省エネ活動の推進
- ゼロエミッションの継続とグループ展開

主な取り組み

文化シャッター製造企画部次長 **堀 俊也**

製造部門では、BXグループ環境方針のもと、環境負荷低減活動を推進しています。文化シャッター全工場においてエネルギーの省力化をめざし、電気とガソリンを中心とした「エネルギー単位の削減」、廃棄物の3Rによる「ゼロエミッション」に積極的に取り組むとともに、生産設備における省エネ機器の導入や電力デマンド管理によるエネルギー使用量の平準化を図っています。また、廃棄物については、文化シャッター7工場、グループ会社3工場のゼロエミッションを達成、継続しており、他グループ会社へも展開しています。

施工

課題

- 施工管理体制の強化
- 現場におけるコンプライアンスの徹底
- 工事・工務力の強化

主な取り組み

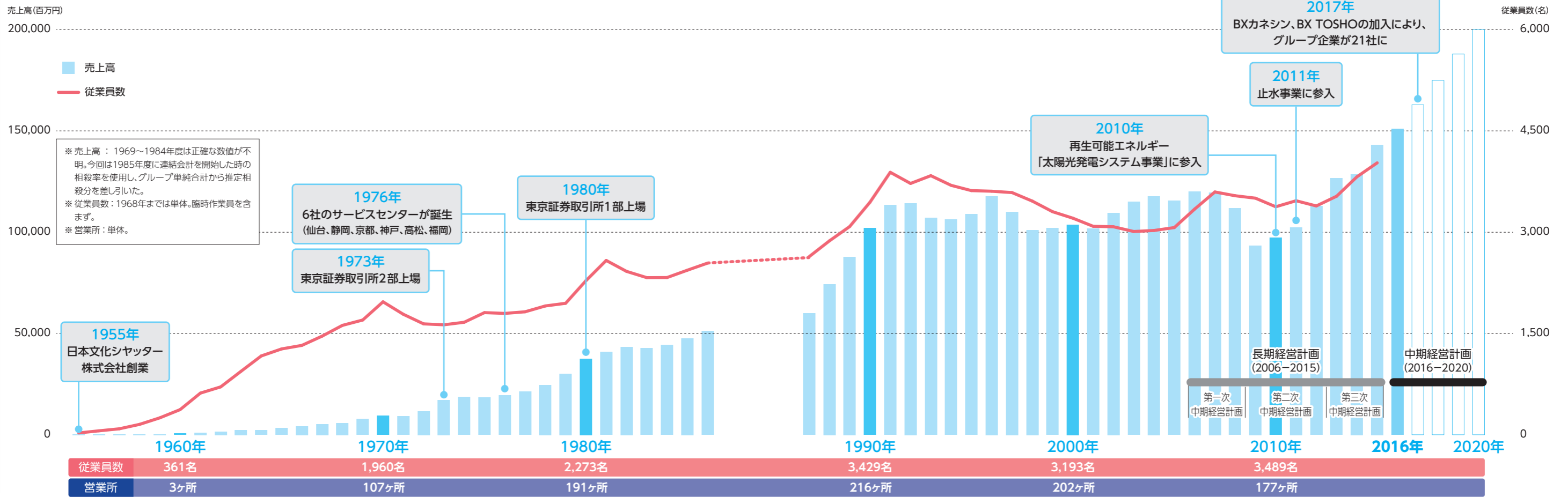
文化シャッター施工企画部次長 **池田 弘**

SQM (安全・品質・マナー) 運動を推進し、「安心」「安全」な施工の徹底をめざしています。現場パトロール体制の整備・強化のほか、安全衛生協議会等での情報共有を通じて、事故や災害のない現場環境を整備するとともに、安定的な施工体制を構築するため、施工員を大幅に増員し、東西の研修施設を活用した一貫した教育プログラムによる育成制度で、即戦力化を図っています。「一気通貫によるモノづくり体制」構築のため、情報の共有化と見える化を推進し、施工技術と安全施工の確立に向けて、新たな取り組みにも挑戦していきます。

「新しい価値創造」への挑戦とBXグループの成長

BXグループは創業以来、常にその時代の社会課題と向き合い、価値創造への挑戦を積み重ねてきました。社会課題の解決に取り組む姿勢がグループを成長させる礎となり、今日のBXグループへと発展させました。今もなお、気候変動をはじめ、少子高齢化、資源・エネルギー需要の増大など、課題は山積みです。BXグループは、このように絶えず変化する社会課題により深く関わり、解決に向けた取り組みを追求することで、「快適環境のソリューショングループ」として進化し続けます。

BXグループの成長



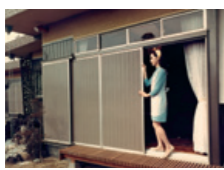
時代における「新しい価値創造」

創業から1960年代 | 1970年から1980年代 | 1990年代 | 2000年代 | 2010年以降

1958年
■ 業界初アフターサービススタート
 お客様に安心して使っていただくためには販売後の保守・点検が不可欠と考え、創業から3年後の1958年、業界初のアフターサービス制度を導入しました。



■ 鋼製雨戸「テッター」誕生
 当時の住宅雨戸は木製または木枠タン張り常識で、朝晩、一枚一枚手で開閉していました。1958年文化シャッターは、操作が簡単な上に防犯・防火・耐風に優れた鋼製雨戸「テッター」を業界に先駆けて開発。テッターは爆発的にヒットし、鋼製雨戸市場が拡大しました。



1974年
■ 防火・防煙シャッターの開発
 1972年の大阪千日デパート火災を契機に、建築物に防火機能の強化を求める声が高まり、シャッターには防火性ととも遮煙性が求められるようになりました。文化シャッターは1974年、防火・防煙シャッターを開発し社会の要請に応えました。



1982年～
■ アフターサービス体制を強化
 1982年に24時間365日サービス体制を確立するとともに、1986年にはサービスカーに「カー無線」を導入。文化シャッターは、お客様に「安心」「安全」かつ「永くお使いいただくこと」に注力してきました。



1991年
■ 業界初、耐火試験炉を完成
 シャッター、ドアなどは建築基準法に基づく防火性能を確認するための認定試験が必要ですが、その当時、試験所が全国に2ヶ所しかなかったため多くの時間を要しました。文化シャッターは、1991年業界で初めて耐火試験炉を設置し、認定のための試験を自社でできる体制を構築。耐火性の高い製品開発の迅速化につなげました。



1998年
■ 業界初、ISO認証を取得
 住宅用窓シャッターの主力工場である掛川工場が、1998年、業界で初めて品質マネジメントシステムの国際標準規格ISO9002の認証を取得し、その後、他の主幹工場も認証取得。製品品質の維持・向上につなげています。

2002年
■ 防犯性能の高い製品をラインアップ
 2002年、戸建て住宅やマンションへの侵入盗が急増した社会情勢に対応して、官民合同会議が設置されました。官民合同会議はより防犯性能の高い建物部品の開発・普及のあり方について検討を重ね、防犯性能試験を実施。その結果に基づいて2004年に公表された「防犯性能の高い建物部品目録」には、BXグループとして計7製品76タイプが搭載されていました。また、官民合同会議は防犯性能の高い建物部品として認定した製品に貼付する「CPマーク」を制定。BXグループでは、犯罪の抑止効果として、優良防犯建材「BAシリーズ」にCPマークを貼付しています。



2010年
■ 再生可能エネルギー「太陽光発電システム事業」に参入
 BXグループでは、建材メーカーとして培ってきた金属加工技術と全国展開するアフターサービス体制を活かし、2010年に太陽光発電システム事業に参入しました。設計・施工から設置、メンテナンスに至るまでを一貫して請け負うことでお客様に安心して導入いただける環境を整えています。



2011年
■ 浸水から社会を守る止水事業に参入
 都市部を中心にゲリラ豪雨などによる浸水被害が社会問題となる中、BXグループは2011年業界に先駆けて止水事業を立ち上げ、オリジナルの止水製品を開発、発売。使い勝手の良さなどが受け入れられ、自治体や企業のBCP対策に、また一般のお客様の浸水対策として採用いただき、「超」モノづくり部品大賞(生活関連部品賞)などの評価もいただいています。今後も社会のニーズを捉えた止水製品を広く普及させることで社会の課題解決に貢献していきます。



震災に強い製品づくりで「安心」「安全」な社会の実現に貢献

大規模な災害時でも確実に機能する「安心」「安全」な製品づくり

東日本大震災や「平成28年熊本地震」などの、私たちが経験したことのない大規模な地震によって甚大な被害が発生し、BXグループの製品も少なからず影響を受けました。「エコと防災」をキーワードに事業に取り組むBXグループとしては、大規模地震発生時に求められる開口部製品が果たすべき役割を重点課題と捉え、このほどライフイン環境防災研究所に「耐震試験装置」を導入しました。大規模地震が発生してもBXグループの製品が確実にその機能を発揮し、皆様に「安心」「安全」にご使用いただくために、そして、今までにない耐震機能を備えた高付加価値ソリューションの開発に、この耐震試験装置を活用していきます。

また、今後発生が懸念されているような未曾有の大規模地震に対しても、被害を最小限に防ぐためのソリューション開発は急務であり、これまで以上に開口部が受けるあらゆる影響を想定した高機能の製品づくり＝「ことづくり」をめざし、さまざまな知見をもったステークホルダーの皆様と協働で開発を進めています。

BXグループはこれからも、BCP対策を含めた、いざという時のための「備え」と災害発生時の被害を最小限に抑えるための「対応」、両面において確実に機能を発揮する製品・サービスの提供を通じて、災害に強い社会の構築に貢献できるよう努力していきます。



文化シャッター 品質保証部
ライフイン環境防災研究所
所長

高木 利久

ライフイン環境防災研究所

「安心」「安全」の追求、時代に即応する開発のスピード化、生活者視点による製品づくりなどをテーマに、生活者の視点で商品の評価・検証までを行うことができる総合試験・検証施設です。



耐震試験装置

実際の構造物に直接地震動を作用させる3次元大型振動実験装置です。

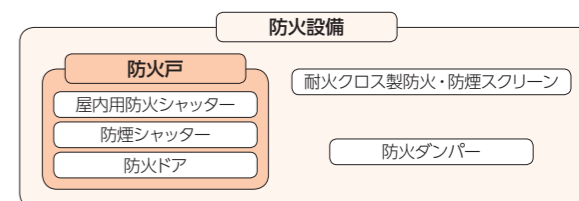


一例として 想定以上の大地震でも確実に機能する防火戸の共同開発

防火戸(ドア)は建築基準法に規定される防火設備*の一種で、火災被害の防止に重要な役割を果たします。常時閉鎖型と随時閉鎖型があり、随時閉鎖型の場合、通常時は全開状態で人の通行が可能です。火災時には閉まることで炎の貫通を防止するように設計されています。ところが2011年の東日本大震災では建物のゆがみによって防火戸が閉まらない事態が発生し問題となりました。

そこでBXグループではメーカーとしての社会的な使命を果たすために、東日本大震災時に被害状況を調査した日建設計と共同で、想定外の大規模震災にも強い製品づくりを進め、今回、新たに開発した変位吸収機構を備えた防火戸を開発しました。震災時に戸枠が大きく変形した場合、その変形量に合わせて変位吸収機構が動くことで確実に閉まり、かつ、必要時には開きます。BXグループはこれからも震災に強い製品づくりを進め、「安心」「安全」な社会づくりに貢献していきます。

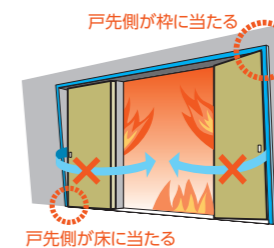
* 防火設備の種類



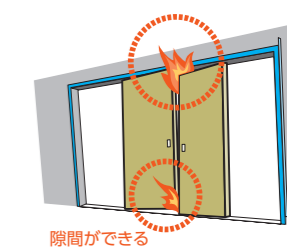
想定以上の地震が発生しドア枠が大変形した場合

一般的な防火戸 壁が傾くことで防火ドア枠が斜めに変形し扉が閉まらないことが予想される

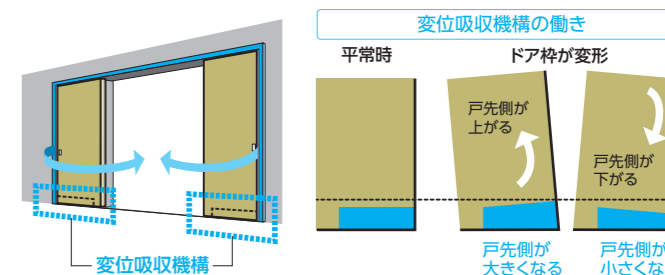
予想1：扉が開閉できず延焼



予想2：扉の隙間から延焼



新開発の防火戸 壁が傾くことで防火ドア枠が斜めに変形するが、「変位吸収機構」が動くことで扉の先側が上下しても確実に閉まる



ステークホルダー
ダイアログ

産官民の連携で実現する 大規模災害に強い製品づくり

「進化する快適環境ソリューショングループ」をめざし、「エコと防災」をキーワードに事業を展開するBXグループでは、近年多発する未曾有の大規模災害への対策を最重要の社会課題であると考え、グループ丸となって防災ソリューションの開発・拡充に取り組んでいます。今回のダイアログでは、懸念される大震災に備えた開口部製品の開発を取り上げながら、社会的課題やメーカーの責任について、関係者の皆様と意見を交しました。



ダイアログ開催概要

開催日：2017年6月12日（月）
場 所：文化シャッター株式会社 会議室
社外参加者：3名
一般財団法人建材試験センター 室星 啓和様
西松建設株式会社 高井 茂光様
株式会社日建設計 土屋 孝司様
BXグループ参加者：2名
文化シャッター株式会社 日高 和幸
BX鐵矢株式会社 今林 哲也
※ 所属・役職は開催当時のものです。

耐震実験設備の導入



文化シャッター株式会社
品質保証部
ライフイン
環境防災研究所
課長
日高 和幸

日高 文化シャッターは創業以来、防犯・防火・防煙等の商品やサービスを通じて「防災」に取り組み、社会課題の解決に貢献してきました。近年、多発するゲリラ豪雨の被害対策として「止水事業」にいち早く参入し、「誰でも・簡単に・素早く」をコンセプトに多数のソリューションを開発し提供しています。また、当社では新たに耐震試験装置を導入しました。地震は揺れの特性によって、シャッターやドアなどの非構造部材が受ける影響が大きく変わります。そのため地震の動きを再現する3次元振動台を用いて製品の耐震性能を検証

し、蓄積したデータを開発に反映していくことで、より「安心」「安全」な製品づくりを進めていきたいと考えています。

高井 西松建設では阪神・淡路大震災を教訓として、最新技術に関わる実験施設の充実が必要であると考え、当時としては最大級の振動台を導入し、技術開発に活かしてきました。今回、文化シャッターさんから耐震試験装置導入のご相談があり、振動台を支える基礎部分の施工を通じて、ご助言させていただきました。

室星 建材試験センターは第三者証明機関として、建設材料、建設部材、建築設備に関わる試験をはじめ性能評価、製品認証などを行っています。その中で私の所属する部署では、シャッターやドアなどの構造試験を行ってきました。東日本大震災や熊本地震といった大きな震災の発生により、耐震関係の業務が多くなりました。今後も検証ニーズ

の増加が予測されるため、文化シャッターさんの振動台導入は時機を捉えた意義のある取り組みであると思います。

震災に対する 非構造部材の課題



西松建設株式会社
技術研究所
建築技術グループ
首席研究員
高井 茂光 様

高井 東日本大震災の時は現行の耐震基準が機能して、構造部材の被害は比較的軽度でした。しかし、避難所となる予定の体育館で天井が落ちて使用できなかったなどの事例があり、建物の機能を保全するためには非構造部材が重要課題の一つであるとの認識が広がっています。



株式会社日建設計
技術センター
ファサード
エンジニアリング室
土屋 孝司 様

土屋 ビルなどの建物は古ければ耐震補強することで構造的な健全さを持っていますので、課題はやはり非構造部材ではないかと思っています。建物が倒れなくても、外装が落ちたり内装が潰れたりする問題があります。ところが、建築業界では非構造部材の耐震性能について踏み込んだ議論がなされておらず、建築建設の中で処理しきれない課題も多いのが現状です。

室星 東日本大震災後、国土交通省などにより非構造部材の試験方法や評価方法が標準化され、それをもとにした開発の流れができてきました。今後、シャッターやドアの耐震に関する試験・評価の標準化の動きが出てくるのであれば、私たちも試験方法などの検討には積極的に協力していきたいと思っています。

日高 そういった意味では、今回ライフイン環境防災研究所に導入した耐震試験装置を活用して、試験・評価の標準化の動きをデータの面で後押しできるようにしていきたいと思っています。

大震災に備えた 防火ドアの共同開発

土屋 日建設計では東日本大震災後に被害調査を行いました。建物の安全性確保には非構造部材の耐震性能も重要であることがわかりました。そこで、震災に強い建物づくりをめざして、内外装材などのメーカーに耐震性能に優れた製品の共同開発を呼びかけました

が、その中の1社が文化シャッターさんでした。

日高 当社でも東日本大震災後にシャッターやドアの被害を調査しましたが、防火ドアが閉まらない、開かないなどの状況が見られました。防火ドアは、地震発生後に閉まることで火災の延焼を防ぎ、人が避難する際には開かなくてはなりません。従来の防火ドアは、地震発生時でもある程度のドア枠の歪みなら充分機能を果たしますが、大規模な震災時であってもきちんと機能を発揮する防火ドアの開発が喫緊の課題であると考え、グループ会社のBX鐵矢と共に共同開発に臨みました。

土屋 今回の共同開発で私たちは建築的な視点から建物全般についてアドバイスさせていただきましたが、ドアに関しては、大地震を想定して建物本体構造の変形量を大きく設定し、それを開発と件として提示させていただきました。

BX鐵矢株式会社
生産管理課
係長
今林 哲也



今林 ドア枠が大きく変形すると、扉がドア枠や床面にぶつかり開閉できなくなります。それを解消するためにドア枠の開口を大きくすると、扉が閉まっても扉と上枠の間に隙間ができ、また床面との隙間が規定より大きくなり、火が回ってしまう。そこで、今までなかった「変位吸収機構」という装置を開発したことで、課題を解決することができました（→P18参照）。

土屋 今回の開発では、例えばボードの変形とドアの変形をどう考えるかなど、

他部材の納まりや工法を正しく反映させることが重要でしたので、私たちの知見も活かされたかなと思っています。

日高 設計会社さんだけではなく、業界全体で知見を出し合うことが必要だと感じています。そのような機会があれば、進んでチャレンジしたいと思います。

BXグループへの 期待・要望



一般財団法人
建材試験センター
中央試験所構造グループ
統括リーダー
室星 啓和 様

室星 今回導入された振動台は、非構造部材の振動特性を検証する上で十分な性能を有しているのので、大いに活用して試験・評価の標準化に取り組んでいただければ、私たちの協力できる機会も増えるかと思っています。また今年、BXグループには耐震に力を入れている会社も加わりましたので、シナジー効果が発揮されることを期待しています。

高井 今後、建物機能の維持管理、あるいは震災時の被害把握などにおいて、センサー技術を含めIoTが活用される時代になると予想されますが、シャッターやドアなどにも活用していただき、より「安心」「安全」な社会づくりに貢献していただきたいと思っています。

土屋 地震のほかにも、津波や多発している竜巻への対応も課題です。津波では水圧に耐え得るドアの開発、竜巻では突風で物が衝突しても飛来物が室内に飛び込んでこないシャッターなど、建築建設と一緒に課題に取り組んでいって欲しいと思います。

ダイアログを受けて



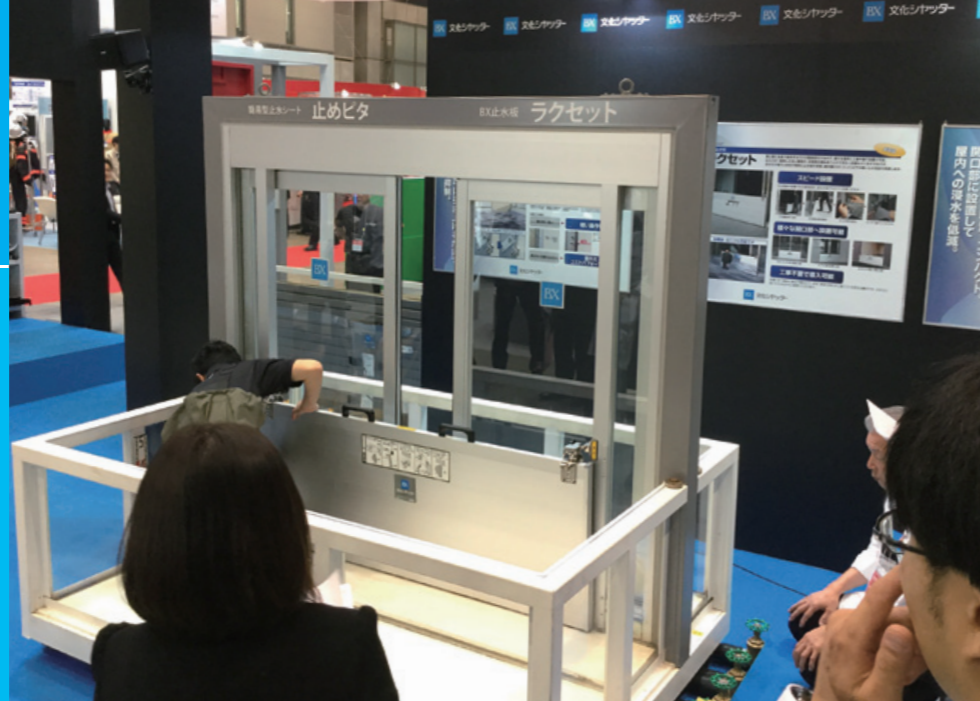
今回のダイアログで改めて、業界の枠を超えて産官民による協働事業の可能性を感じることができました。今後はステークホルダーの皆様のお力をお借りしながら、企業単独ではなし得ないソリューションを生み出し、社会課題の解決につなげていきたいと思っています。

CSR統括部 執行役員部長 松山 成強

成長と共に

お客様の生活全般を把握することで本当に必要とされる製品やサービスを提供する「ライフ・イン」と、未永く「安心」「安全」にご使用いただくことで、お客様との信頼関係を築いていく「ライフロング・パートナーシップ」。

事業の根幹に息づいてきたこの二つのコンセプトは今後も継承すべき当社グループ不変のDNAとなりました。BXグループは、お客様に「安心」「安全」を提供できる「快適環境のソリューショングループ」として今後も進化を続けていきます。



「危機管理産業展2016」止水製品の実演ブース

活動ハイライト

2016年度目標	実績 (○目標達成 △要改善)	2017年度目標
「ライフ・イン」の発想によるエコ・防災事業の強化	●「営業が商品を創る」プロジェクト ●地域との共生～文京区長との対談～	グループ総合力を駆使した基幹事業の基盤強化
ストック市場に対するメンテナンス事業の強化	●設計・工務革新プロジェクト ●防火設備の法定点検推進	注力事業の成長を目的とした「エコ・防災」関連事業の推進
グループシナジーの最大化とグループコンプライアンスの向上	●BXカネシン・BX TOSHOをグループ会社化 ●コンプライアンスの徹底	グループコンプライアンスの推進
東南アジアを内需と捉えたパートナー戦略での海外事業強化	●パートナー戦略体制の構築 ●Eurowindow社との協業体制によるローカル市場拡大	社会課題解決のための商品・サービスの拡充

お客様の満足を追求

「営業が商品を創る」プロジェクト

BXグループは、お客様に新しいライフスタイルを提供する高付加価値の創造をめざしています。お客様に感動を与える“ことづくり”を実現するためには、お客様に寄り添い、感性を持って「見る」ことで、お客様の潜在化のご要望を顕在化する総合提案力を身につける必要があります。営業担当者がお客様の声を具現化し、新事業、新商品の開発へとつなげる「営業が商品を創る」プロジェクトは、2011年の開始以降、お客様の情報を共有することで毎年テーマに沿った提案をし、豊かな発想による新たな提案には表彰制度を設けています。これまでに数々の提案が商品化され、販売を開始しています。



車載用自動開閉リモコン「セレクルーズ」

お客様相談室の取り組み

BXグループは、お客様の要求品質を満足させるために企画、開発、営業、設計、購買、製造、施工、メンテナンス、各部門の仕事の品質を向上させ、グループ全体としての品質保証体制を構築し、お客様より信頼される品質をめざしています。お客様相談室は、お客様から電話やメール等でいただいた要求品質を正しく掴み、適切、迅速そして誠実に対応することを心掛けています。

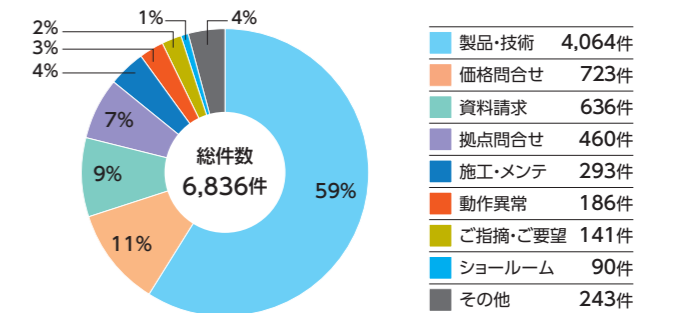
お客様からいただいた貴重な情報は、随時関連部門に発信し、新商品の開発や商品の改良・改善、ホームページやカタログのリニューアルに活かし、お客様満足の向上に努めています。

ています。また、社内のポータルサイト上に「お客様相談室情報館」を立ち上げ、全従業員がいつでもお客様の声を閲覧、検索することができます。

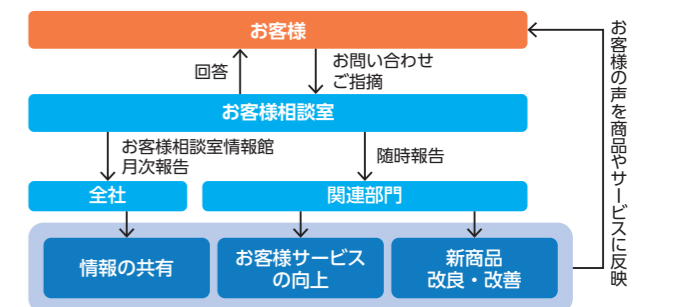
日々の活動として、電話受付終了後には夕礼を行い、一日の問い合わせ対応を報告し合っています。お互いが気づかなかったことを確認し、応対力の向上に努めています。

今後もお客様より信頼される品質を追求し、邁進していきます。

2016年度のお問い合わせ件数とその内訳



お客様対応の流れ

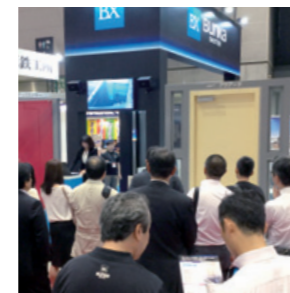


TOPICS 主な出展展示会

展示会	出展製品
防災防災総合展 in KANSAI 2016	BCP対策製品
危機管理産業展2016	防災関連製品
SAFETEC2016 第2回 西日本防災・防犯危機管理展	防災関連製品
VIETBUILD HCM 2016 (ベトナム) (Eurowindow社と共同出展)	住宅用ガレージ・窓シャッター
2016高雄国際建材大展 (台湾) (GLADOORと共同出展)	住宅用ガレージ
CAMBUILD 2016 (カンボジア) (三井物産メタルズと共同出展)	住宅用建材、防災関連製品
MYANBUILD 2016 (ミャンマー) (三井物産メタルズと共同出展)	住宅用建材、高速シートシャッター、重量シャッター
2016台北国際建材大展 (台湾) (GLADOORと共同出展)	住宅用ガレージ
VIETBUILD HANOI 2017 (ベトナム) (Eurowindow社と共同出展)	住宅用ガレージ、住宅用建材

危機管理産業展2016

文化シャッターでは、行政、企業に対し、防災・防犯対策等の必要性を提案することを目的に、危機管理に関わる全ての分野を網羅したビジネストレイドショー「危機管理産業展2016」に継続して出展しています。恒例となった止水製品の実演では、実際に製品を取り付けて水槽に水を張ることで、その簡易性や有効性を目で見て確認していただく貴重な機会となりました。見学者からはご質問やご要望が多数あがり、改めて止水製品への期待の高さを感じました。



VOICE

1日5回実施した止水製品の実演には毎回ブースから溢れるほどの見学者が訪れました。防災、とりわけ止水製品への関心の高さを感ずると同時に、来場者の職種も多様化しており、今後ますますお客様のさまざまなシチュエーションに応じた製品を総合的にご提案する必要があると感じました。このような展示会への出展は、直接お客様のお声を聞くことのできる最も貴重な機会です。



文化シャッター 営業推進部 井出 愛実



「守りたい、みんなの安心・安全を」をテーマとした日刊工業新聞社主催の「SAFETEC2016 第2回西日本防災・防犯危機管理展」が北九州市西日本総合展示場で開催され、文化シャッターは昨年に続き「安心」「安全」に関連した防災ソリューションを展示しました。

VOICE

「平成28年熊本地震」による被災地に近いエリアでの開催とあって訪れる人の防災意識が非常に高く、特に止水製品の実演は大変好評でした。講演のために会場に訪れていた熊本県知事がブースに立ち寄り、当社が寄贈した「避難所用間仕切り」が実際に避難所でのように使用されたのかなど、発災当時の状況をお話しくださる場面もありました。



文化シャッター 九州支店 営業開発部 富原 千佳